

平成30年度 第2回屋久島世界遺産地域科学委員会議論の整理

資料1

課 題	主 な 意 見	関 係 機 関	回 答
議事(1)	資料1：遺産地域管理計画の見直しについて(環境省) ①遺産地域管理計画を着実に進めてほしい。そのために、科学委員会と関係機関等による作業部会を設けて進捗状況を報告しながら進める方法も検討してほしい。 ②遺産地域管理計画見直しについて、5年毎に中間的見直し、10年毎に改定することなどについて、改訂のルール化をした方がいいのではないか。 ③管理計画の見直しに併せ、世界遺産登録地の拡張について検討して欲しい。 ④モニタリング計画に含まれていない口永良部島噴火の降灰等のデータを収集してほしい。 ⑤管理計画見直しにあたっては、エコパークとの連携も含めて検討してほしい。	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	①山岳部利用あり方検討など、管理計画に反映すべき他の検討の進捗を見つつ、ずるずると後ろに大きくずれることのないよう進めていく。委員会の検討だけで進めることが難しい場合には、適宜部会やメール等他の意見を伺う方法を検討する。 ②見直しのルール化は、この改訂に合わせて検討する。 ③今のところ、モニタリング計画見直しと、山岳部利用あり方検討などに関わる反映を考えており、抜本的な見直しや登録地域の追加は考えてなかったが、見直し作業の中でその必要性について議論が進んでくれば検討することとしたい。 ④管理計画の中に入れるのが妥当かどうか含め、相談しながら進めていく。 ⑤エコパークとの連携も検討しながら進めていく。
議事(2)	資料2-1：地域連絡会議構成組織の見直しについて(環境省) 資料2-2：ガバナンスの改善について(土屋委員) ①地域連絡会議の見直しだけでなく、科学委員会のあり方(ガバナンスの担保、WGの機能強化等)についても併せて検討すべき。 ②市民科学的・民族学的な視点からコメントできる地元の方々は、科学委員会に残っていただく体制を担保してほしい。 ③地域連絡会議には、科学委員会委員長のほかにも希望する委員はオブザーバーとして参加するなど、連携協力強化を図るようにしてほしい。 ④地域ごとの事象は重視すべきだが、他地域との整理はすべき。行政の役割と科学委員会の役割が混乱しているため、科学委員会と地域連絡会議については本省(環境省自然環境計画課と林野庁経営企画課)で整理すべき。 ⑤管理主体が、計画、企画運営、基本的方針、中長期展望を含めて整理してくれれば科学委員会、地域連絡会議のやるべき課題が見えてくる。	◎環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	①～⑤各会議の位置づけや、既存の協議会との関係、屋久島が抱える課題等を整理した上で、屋久島にふさわしい遺産管理のあり方について検討し、提示させていただく。
議事(3)	資料3-1 H30モニタリング調査等結果(環境省) ①景観のモニタリングを一度中止してしまうと以前に収集したデータが活用されなくなってしまうので、頻度と投入できる人員を見直した上で、継続していく必要がある。 ②写真観測や入込みカウンター観測に用いる機材は進化しているので、性能の高い機材を使うことで、より精度の高いデータが得られる可能性がある。 資料3-2 H30モニタリング調査等結果(林野庁) 降水量観測データ(保全センター分)について、年々の変動が非常に大きい理由は、欠測や風の影響などで正確な降水量を反映できていないということか。	◎環境省 ◎林野庁	①～②限られた人員体制と予算で実施しており、同じような景観がいくつかある中で、屋久島の気候ではなかなか写真を撮れないこともあるため、ご意見を踏まえて精査する。 欠測等によりデータの正確性を欠いているものと思われる。欠測期間の取扱いを再考する。

課 題		主 な 意 見	関 係 機 関	回 答
議事（４）	資料４－１ H31モニタリング調査計画 （環境省）	①音について、モニタリングの必要性を提案したが、パイロット事業として実施できないか。 ②口永良部島の噴火の際には、屋久島内の標高が低い地域だけでも一周して位置と写真のデータがあれば、山岳部にどれくらい降っているかという予想がつく。噴火等があった際にはすぐに調査できる体制が望まれる。	◎環境省 ◎林野庁 鹿児島県 屋久島町	①音については、モニタリングの対象とする予定はない。（環境省） ②平成27年5月の大噴火の際、屋久島の回復保全対象に加わると思われる国有林10箇所程度に簡易なプロットを設置して調査（降灰・植生）した。今後の噴火の状況も踏まえつつ、委員の方々の助言を得た上で調査体制を検討する。（林野庁）
	資料４－２ H31モニタリング調査計画 （林野庁）	①樹勢診断は著名ヤクスギに限定せずに、その他の花山大杉なども対象にしてはどうか。 ②原生自然環境保全地域であるので、倒木の危険性の有無について簡易的な調査方法を採用できないか。	◎林野庁	①花山大杉等の巨木についても、今後の調査対象木として検討する。 ②倒木の危険性等について調査することとし、調査に際してはご指導を賜りたい。
議事（７）	資料７：高層湿原保全対策検討会 （林野庁）	①花之江河の水域が下がった要因が、シカによる踏み抜きなのか、木道設置によるものなのか、登山道からの土砂流入なのか把握してほしい。また、水路の縦断面図や横断面図を作成してほしい。	◎林野庁	①今後のモニタリング調査等を実施して把握したい。地形図作成については、検討したい。
議事（８）	資料８：屋久島町エコツーリズム推進全体構想 （屋久島町）	①協力金体制を整理して、ある程度体制を確立しても解決しない場合には地域自然資産法の適用とするべき。 ②ウミガメに関しては、永田浜と栗生浜だけにウミガメ観察のルール設定をするのではなく、ウミガメ全体を特定観光資源として保護すべき。	◎屋久島町	①別途慎重に協議する必要があるため、来年度にはまとまらない可能性もあるが、根本的なところを考えていく。 ②ウミガメの保護についてはこれまでどおりであるが、委員からの意見も参考に検討したい。